

## 安全な「餅つき会」にするために！

毎年、餅つき会でノロウイルス食中毒が発生していますが、安全な餅つき会にするにはどうすれば良いか考えます。

### ● 昨年の事件から

☆2010年1月、東京都内の私立幼稚園で「餅つき会」の餅を食べた園児や職員、園児の家族154人が食中毒を起こしました。餅つきに参加した人の中にノロウイルスに感染した人がおり、餅つき機器からの汚染や従事者の手洗い不備で、餅を汚染したものと考えられました。

☆2011年12月10日、京都市伏見区の小学校で開催された「もちつき大会」で、もちを食べた児童や保護者等138人のうち54人が食中毒症状を訴え、うち21人からノロウイルスが検出されました。

もちつき大会では、きな粉もち、雑煮、ぜんざいを提供され、翌日午前2時ごろから下痢や発熱、嘔吐（おうと）などの食中毒症状が出始めました。京都市保健所は、共通する食事がもち以外にないことなどから、もちが食中毒の原因と断定しました。

## 餅つきにはどんな危害があるのか？

### ● 作業に多人数が加わる

地域や保育園、学校等での開催になり、構成員の多くが餅つき作業に加わるので、衛生管理が困難になります。

### ● 手に触れる機会が多い

餅つき会では、手返しや、切り分け、きなこ餅、あんこ餅にする際には、餅に直接触れる作業工程があり、手指を介してノロウイルス汚染を広げる可能性があります。

### ● 器具類はその場限りのものが多い

杵（きね）や臼（うす）等、日頃使用していない器具を使うので、清潔を保つのが難しくなります。

## 餅つきによるノロウイルス食中毒を防止するための注意事項

### ● もちつき係の人選

- ①携わる人を限定し、エプロン・白衣を着用し、一般参加者と区別する。
- ②健康に十分に注意して、風邪をひいた人、お腹がゆるい人は携わらない。
- ③従事する人は全員、石けんを用いて流水で2回手洗いをする。

### ● 用意する器具類

杵や臼、桶（手返し用水桶）なども事前に洗浄し、出来れば次亜塩素酸ナトリウム液で殺菌しておく。

### ●もちつき作業中には

- ①手返し用の水はこまめに交換する。(手返しする人は少人数に限る)
- ②切り分け、きなこ餅、あんこ餅など、餅に触れる人を固定して、出来れば使い捨て手袋などを着用する。

### ●食べる方法

拡大防止のために、その場で食べるようにし、持ち帰りはない。

## 保育所や幼稚園での餅つき会では、食べるものと飾るものを区別する

保育所や幼稚園などの餅つき会は、子どもたちに餅つき（作業）の楽しさを知ってもらう事業なので、できるだけ全員が参加して行うことになります。

しかし、小さい子どもたちに、手洗いを徹底させたり、健康状態をチェックするのは困難が伴います。

そこで、子どもたちが参加してついた餅は、鏡餅など飾るものに使用します。皆で食べる餅は、調理さんや保育士さんなど、衛生管理ができる人たちが、上記の注意事項を守って作ります。

最初の段階で、大人がついてあげて、その後、子どもたちが参加する餅つきにするなど、工夫して、安全な餅つき会にしてください。